

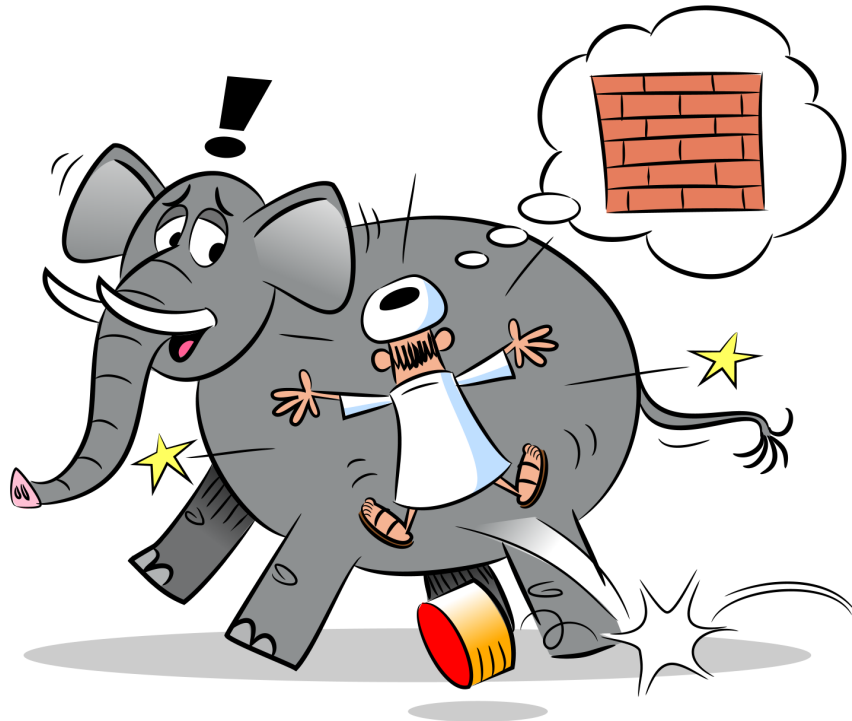
め み ひと たち はなし 目の 見えない 人達と ゾウの お話

むかしむかし
昔々、インドには、目の 見えない 6人の 人と ゾウの たとえ話が ありました。
め み ひとたち
目の 見えない 人達が ゾウを さわって、ゾウが どんな 動物かを 言い表す
はなし
お話です。

もうじん
盲人1：そんなの 分かるかい？ ゾウなんて、見たことも ないのに。
わたしたち
どうしてだって？ 私達は、目が 見えないからだよ。

もうじん
盲人2：そうだなあ。ゾウを さわってみれば、分かるかも。

もうじんぜんいん
盲人全員：そうか！ そりゃ、いい 考えた。いいぞ！



さいしょ ひと ちか
最初の 人が ゾウに 近づきました。彼は たまたま ゾウの 横っ腹に ぶつかり、
おどろいて 言いました・・・

もうじん
盲人1：うわあ、おどろいた！ 私の 察する ところ、ゾウとは・・・まるで、
かべ たい かべ
壁みたいだ。平らで がんじょうな 壁のようだ。

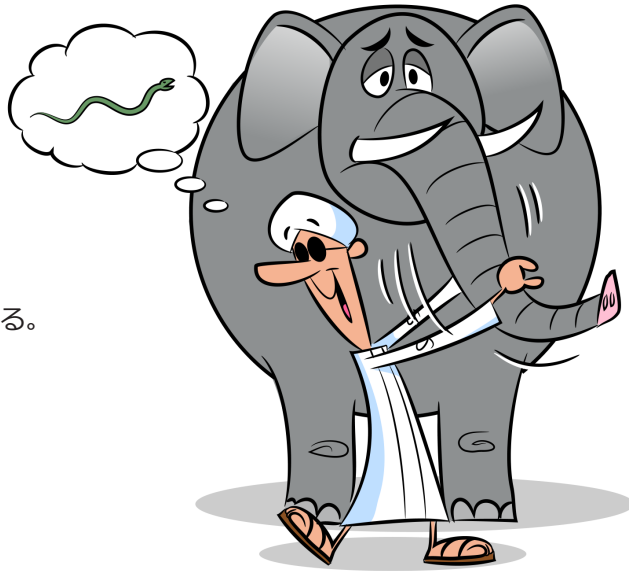
ふたり め ひと き
二人目の 人が 来ました。彼は 手を のばすと、白くて とがった ゾウの きばを
つかみました。

もうじん
盲人2：こんなに 丸くて なめらかで とがった 物と 言えば、何だろう？
わたし さつ
私の 察する ところ、ゾウとは、ヤリのような ものに ちがいない。



さん^{にん}め^めひと^{ひと}く^く
三人目の人が来ると、
ゆっさゆっさ ゆれている
はな^{はな}
鼻をつかみました・・・

もうじん^{もうじん}
盲人3: おや! おやおや!
わたし^{わたし}おも^{おも}
私が思うに、ゾウとは
ヘビのようなものだ。
なが^{なが}
長くて によろよろしている。
うわあ、^{まった}ま^まった 全く おどろきた、
う〜ん・・・



いちばん^{いちばん}せ^せひく^{ひく}
一番 背の低い
よ^よにん^{にん}め^めひと^{ひと}き^き
四人目の人が来て、
りょうて^{りょうて}まえ^{まえ}さ^さ
両手を前に差し
だ^だ
出しました。そして、
あし^{あし}りょううで^{りょううで}
ゾウの足に両腕を
まわ^{まわ}おお^{おお}こえ^{こえ}
回すと大きな声で
い^い
言いました・・・

もうじん^{もうじん}なん^{なん}
盲人4: 何と
がんじょうで、^{まる}まる^{まる}
丸くて
せ^せたか^{たか}
背が高いのだ。
うたが^{うたが}よ^よち^ち
疑いの余地はない。
ゾウとは、^きき^き
木のよう
なものだ。



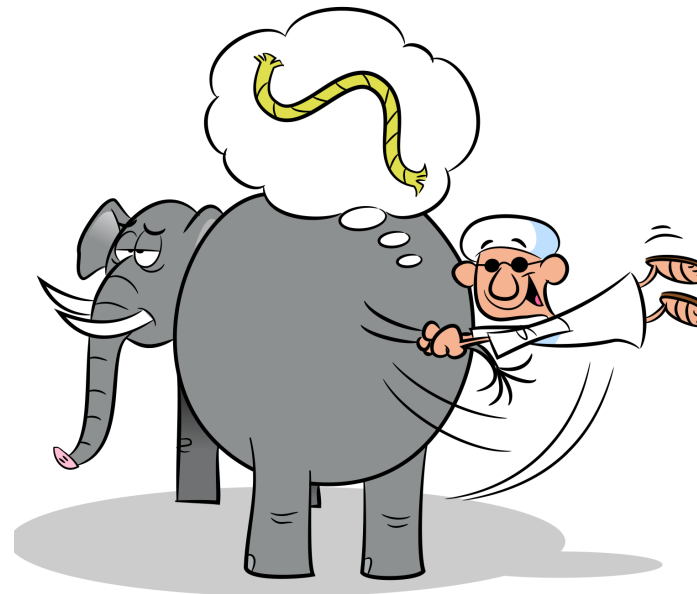
ごにん^{ごにん}め^めひと^{ひと}
五人目の人は、
ゾウの^{みみ}み^みみ^みを さわって、
おおわら^{おおわら}
大笑いしました。

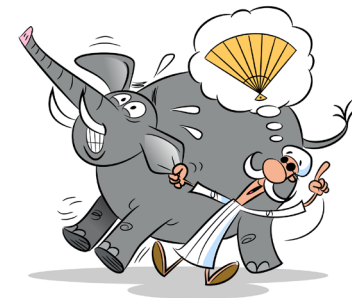
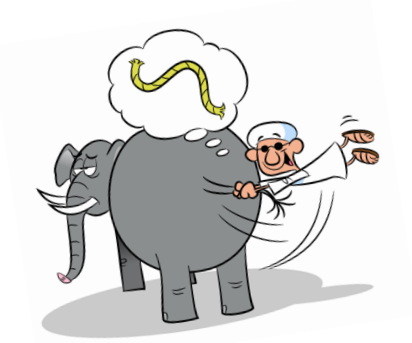
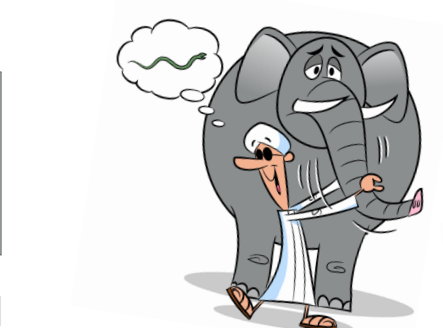
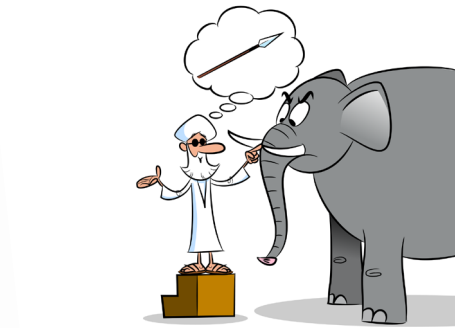
もうじん^{もうじん}
盲人5: どんなに^めめ^め
目の
み^みひと^{ひと}
見えない人だって、
ゾウが うちわのよう
あることを^{ひてい}ひ^ひてい^{てい}する
ことは できまい。

もうじん^{もうじん}
盲人6: いやいや、
そんなことはない!
みなさんは^{ぜんいん}ぜん^{ぜん}いん^{いん}
全員、
まちがって おる。

さいご^{さいご}ひと^{ひと}
最後の人は、
ゾウの しっぽを
ひ^ひば^ばい^い
引っ張って 言
いました。

もうじん^{もうじん}
盲人6: ゾウとは、
なわのよう
なものだ。





もうじん
盲人 2 : なわが、ヤリのように ある わけは
なかろう？ おまえさんは まちがっておる！
指切りげんまんて、それを しょうめい
しようぞ。

もうじん
盲人 3 : いやいやいや！ ゾウが なわのようだと
おも 思いついた ことは わ 分かるが、友よ、それは
ぜったい 絶対に ちがう。ゾウとは、なわと いうよりは、
へびの ような ものだ。それが、私の 思う
ところじゃ。

もうじん なん いま なん い
盲人 1 : 何だって？ 今 何と 言った？

もうじん いま い
盲人 3 : 今 言ったでは ないか。

もうじん
盲人 1 : つまり、なわと いうよりも、へびの ようだと？

もうじん
盲人 3 : そう、なわでは なく、へびだ。

もうじん ひら
盲人 1 : だがな、ゾウとは、平べったくて がんじょうだ。
まるで 壁の ようだと 言うて おるでは ないか。

もうじん
盲人 3 : いやいや、へびの ような ものだ。

もうじん かべ い
盲人 1 : 壁の ようだと 言うて おるだろう。

もうじん わたし い とお
盲人 3 : いや、私の 言った通りだ。

もうじん かべ
盲人 1 : 壁の ような ものだと 言うて おるでは ないか。

もうじん
盲人 6 : いやいや、それは ちがう！

それで、6 人が それぞれ 自分 の 言っている ことが
ただ 正しいと 言うて、はげしい 言い争い に なりました。

もうじん
盲人 3 : いやいや、そうでは ない！

ついに、ゾウ使いが みんなを だまらせて 言い
ました。

ゾウ使い: みなさん、みなさん、どうか、お静かに！
みなさんは みんな まちがっていますが、みんな
ただ 正しくも あります。ゾウとは、それらの ものを
ぜんぶ 全部 いっしょに したような 動物なのです。
つまり、壁と ヤリと 木と ヘビと うちわと
なわ全部をです。ですが、その中の ただ一つと
いう ことは ありません。

もうじん
盲人：おおお～！

ゾウ使い: それら すべての 部分を 合わせると、
ゾウの 全体像が 出来上がるのです。

もうじん
盲人：へえ～～。

ゾウ使い: それでは みなさん、この 試みの
しめくりとして、みなさんを ゾウに 乗せて
さしあげましょう。

もうじん
盲人：それは いい。ゾウに 乗るとは、楽しそうだ。

この お話の 教訓とは、物事の 一面だけを見て、
自分は 正しく 他の 人は まちがっていると 言っでは
いけないという ことです。あなたは 物事の 全体像を
見ていないかもしれないからです。他の 人が ちがう
面を 見ているかもしれませんからね。ですから、
いつも 他の 人達の 意見を 聞くのは 大切だという
ことを 覚えておきましょう。

